

【旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築】



【旧鉄道連隊材料廠煉瓦建築】西側外觀(2024年4月10日撮影)

学校法人 千葉経済学園

名称	旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築 きゅうてつどうれんたいざいりょうしょうれんがけんちく
指定区分／種別／指定日	県指定有形文化財／建造物／1989(平成元)年3月10日
所在地／所有者	千葉市稲毛区轟町 3-59-6／千葉経済学園



建物について／概要

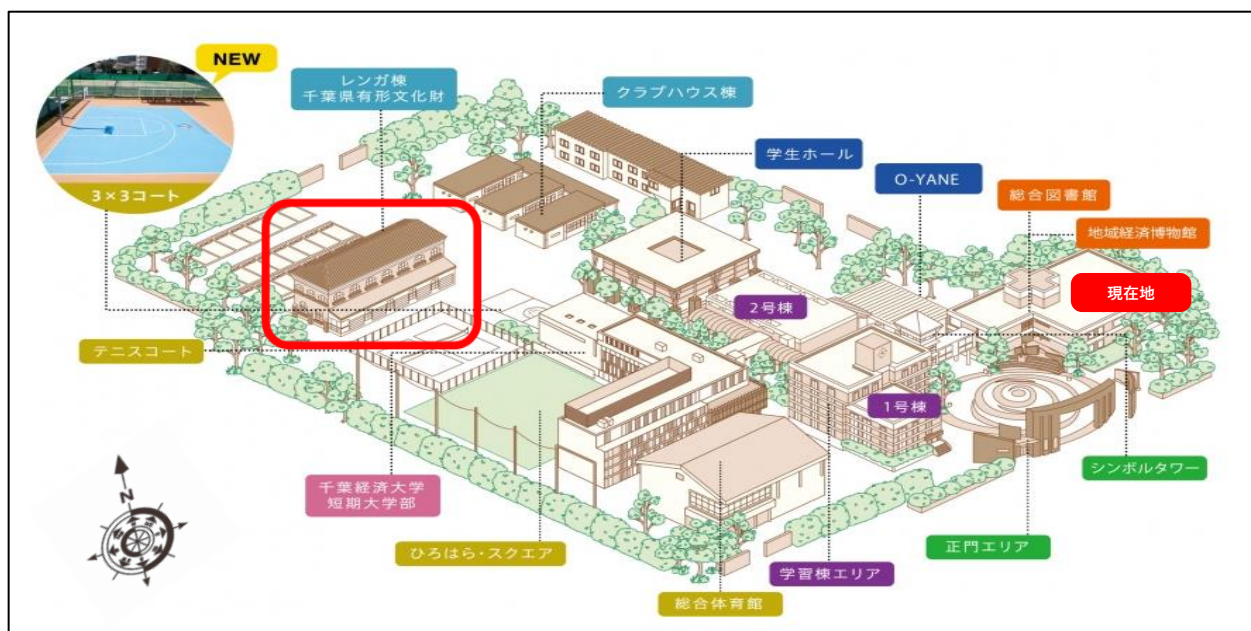
主要構造部分	東西 54.4m、南北 12.7m の東西に長い長方形。(南北にそれぞれ 2.7m 幅の下屋を含む) 主屋の東西:煉瓦造 下屋・小屋組:木造 屋根:トタン葺き 木造部分の外壁:トタン張り
構造	平屋建て。下屋の屋根の上に見える煉瓦壁には連続した孤形のアーチの高窓が見える。 内部は広大な空間を持ち、煉瓦造の連続した 10 連の孤形アーチが 5.4m 間隔で並んでいる。 南側の外には 2 種類の幅の違うレール(600mm(鉄道連隊演習路線等)・1067mm(軍用鉄道・国鉄(現:JR)等)が一部残っており、当時の出入口に続いている。

1908(明治 41)年 8 月に、旧陸軍鉄道第一連隊の材料廠として鉄道軌道の材料や蓄積の管理、列車の組立や修理等を行うことを目的に建築された。

その後、1923(大正 12)年には「千葉陸軍兵器支廠」となり、戦後は大蔵省(現:財務省)に引き継がれ、国鉄(現:JR)がレールセンターとして使用するために借り受けていたが、近いうちに国鉄(現:JR)が移転するとの情報を得た千葉経済学園が払い下げの陳情を進めていき、1985(昭和 60)年 1 月 31 日に敷地の東側 3 分の 2 が千葉経済学園の所有となった。

当初は学園施設の一部として利用する予定とし、全面的な補修を行ったが、「煉瓦造の建物は建築基準法上、校舎として使用することは適当ではない」との見解を市当局から示され、学園の運営上一旦は取り壊すことも検討された。

しかし「**歴史上由緒ある建物は社会全体のために後世に残すべきである**」との考えから、永久に保存するために、千葉県指定文化財としての認可申請を行い、平成元年に県指定有形文化財として認可を受け現在に至る。



千葉経済大学キャンパスマップ(2024 年現在)

煉瓦棟の歴史

1908(明治41)年8月	鉄道連隊材料廠(後の千葉陸軍兵器支廠)内の施設の一部として竣工。
1918(大正7)年5月	鉄道材料廠として連隊より独立。
1923(大正12)年4月	鉄道材料廠が千葉陸軍兵器支廠となる。
1945(昭和20)年11月30日	旧軍東部管理経理部長から大蔵省(現:財務省)へ引き継がれる。その後、国鉄(現:JR)が借り受け、列車・レール等の修理工場として使用。
1985(昭和60)年1月31日	学校法人千葉経済学園が払い下げを受ける。
1986(昭和61)年8月	補修(トタン張り替え、土間コンクリート打ち)後、倉庫として使用。
1987(昭和62)年7月22日	千葉県文化課に県の指定文化財としての認可を申請する。
1989(平成元)年3月10日	有形文化財建造物として指定を受ける。

鉄道連隊材料廠が建設された経緯

当時、千葉町の北方台地には陸軍各種連隊の兵営が次々に新設されており、鉄道部隊も主力を千葉に移すべく千葉町や津田沼に敷地が確保されていた。鉄道連隊は1907年(明治40)年11月に津田沼に転営し、1908(明治41)年11月には連隊本部及び第一大隊の全てが千葉市に転営した。この転営を行うにあたって、千葉市に新設された連隊材料廠の敷地に、その施設の一部として煉瓦棟が建設された。

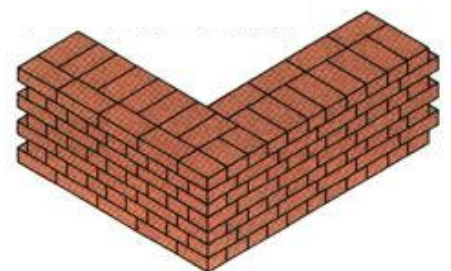
設計者については不詳であるが、材料廠内の建物の配置は初代材料廠長となった**山内岳造少佐**が立案し、工場の細部については**木元延次郎上等工長**が設計したという記録が残っている。施工は県内の軍事関係の施設を多く手掛けた戸田組(現:戸田建設株式会社)が行ったとされている。

使用煉瓦及び、積み方について

使用されている煉瓦は217mm×105mm×56mm(各煉瓦はそれぞれ1mm前後の差がある)の大きさの素焼き煉瓦で、現在一般に使われている煉瓦(210mm×100mm×60mm)と比較して、長さとは幅は大きく厚さが薄い。従って、この煉瓦は現在の煉瓦よりやや扁平な形をしており、これは**明治期の煉瓦の特徴を示すものである**。

煉瓦の積み方は明治20年代以降の日本では、一般的にイギリス積みという方法が多く用いられていた。煉瓦棟の場合はイギリス積みの中でも特に**オランダ積み**と呼ばれるものである。オランダ積みは壁面に見える煉瓦の積み方はイギリス積みと同じであるが、出隅に羊羹(煉瓦の種類)を用いないで七五(煉瓦の種類)を出隅にすえる積み方である。千葉県では煉瓦棟と同時期に建てられた比較的規模の大きな建物に、このオランダ積みが使われている。

オランダ積み(1枚半)



『かみゆうべつデジタル・レンガ・マップ | レンガの基礎知識』
(<http://www.phoenix-c.or.jp/~santaku/web-renga/htmls/rengakiso.html>)



『給水塔』

現在図書館が建っている場所付近には給水塔があり、かつては機関車をはじめ兵器廠内の水源に活躍した。戦後は使用中止ながら残されるも、1985（昭和60）年3月末に解体される。



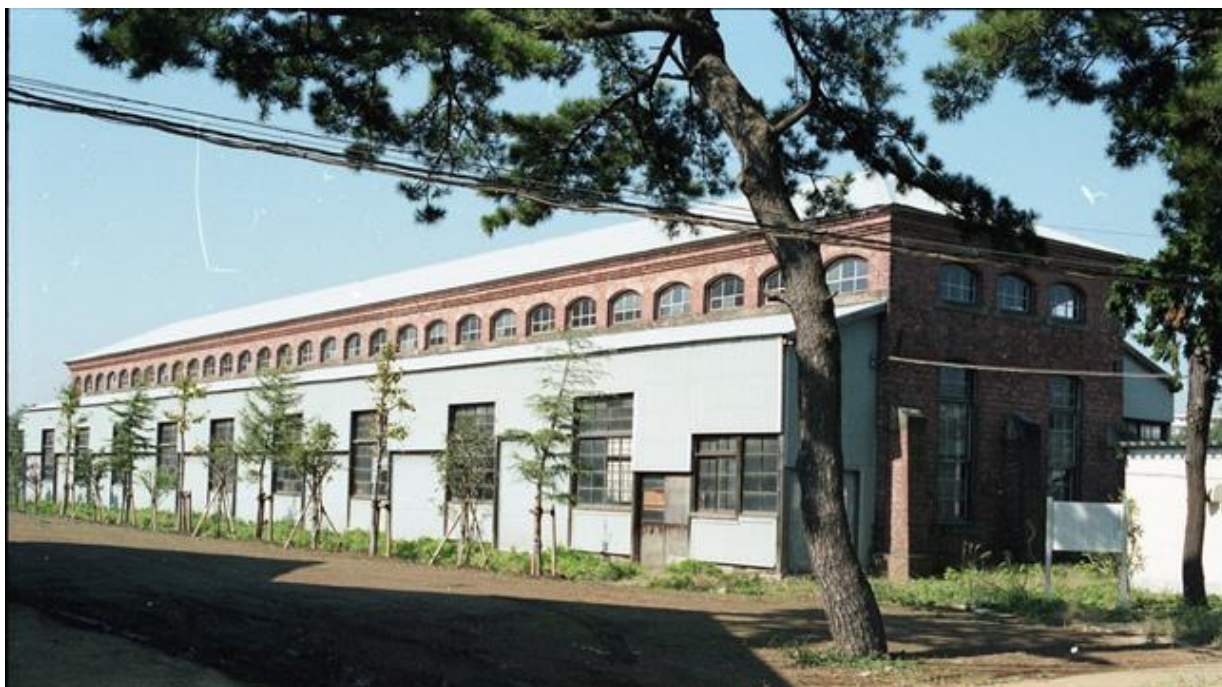
煉瓦棟の移り変わり



『補修前の外観』

トタン張りのシャッター扉が外側から見え、ガラス窓とスチールシャッターが交互に並んでいる様子がわかる。

【1984(昭和 59)年 9 月 25 日撮影】



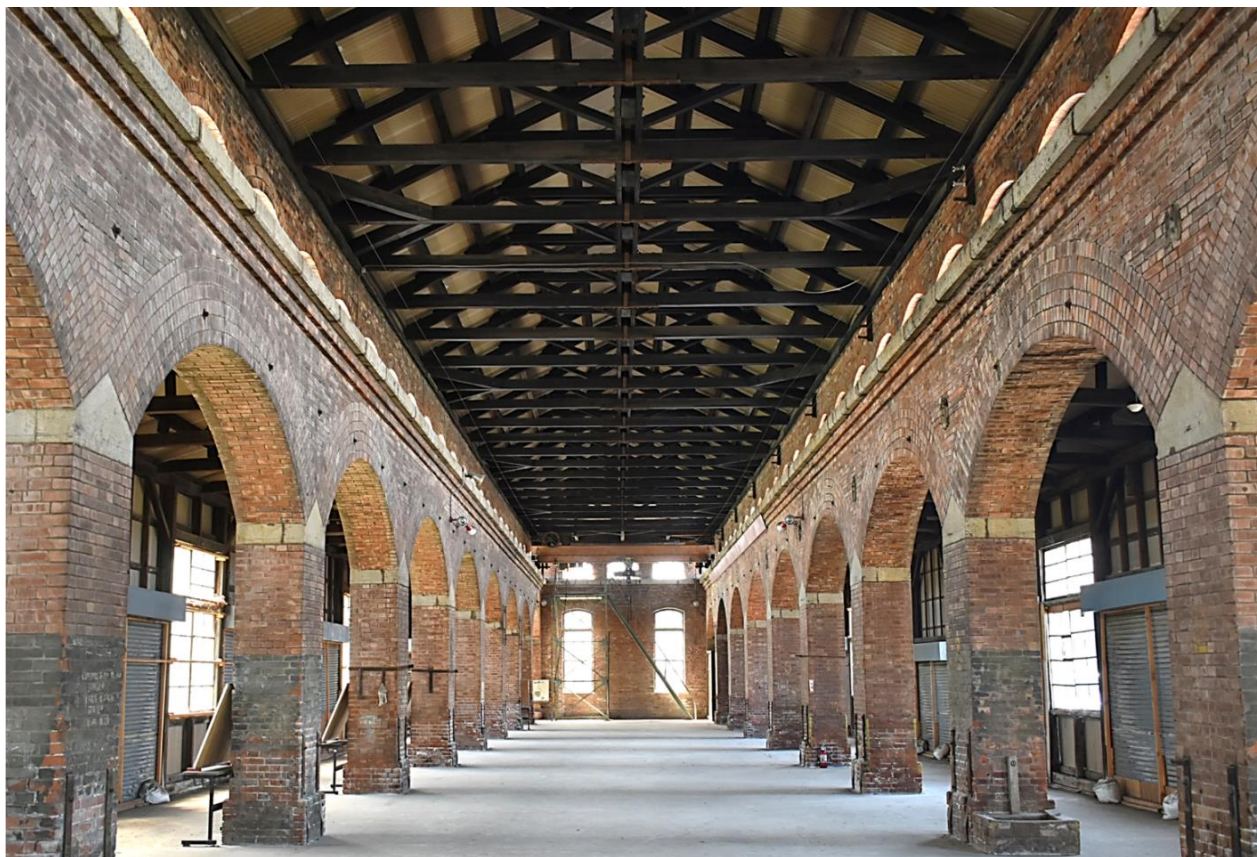
【1990(平成 2)年 9 月 25 日撮影】

『補修後の外観』

煉瓦棟前のレールが撤去され、シャッター扉部分を新たにトタンを使って補修されている。



内部の様子



煉瓦アーチ(2024年4月11日撮影)



『クレーン用のレール』

英国から輸入されたレールにはメーカー名(BARROW STEEL)・製造年(1894年)・発注者:日本鉄道(N.T.K)が刻まれている

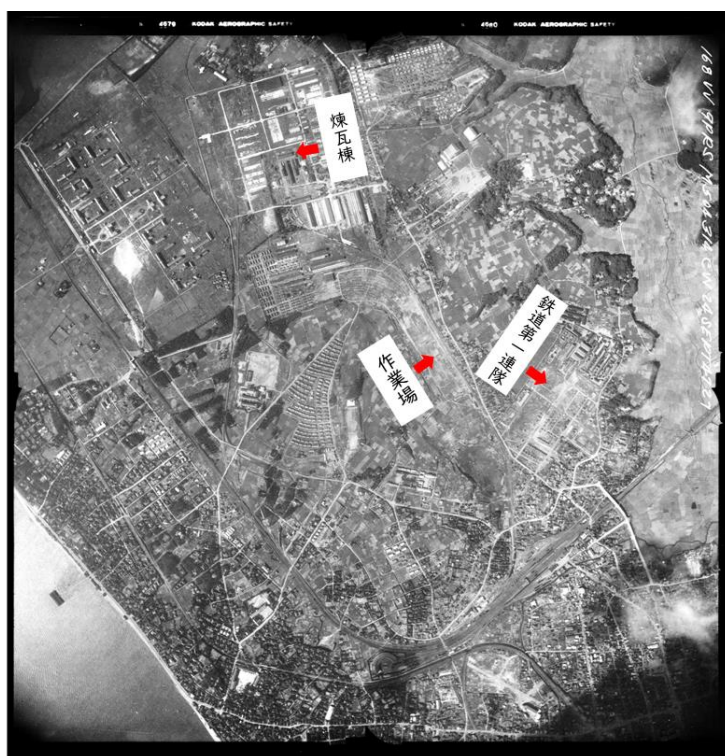
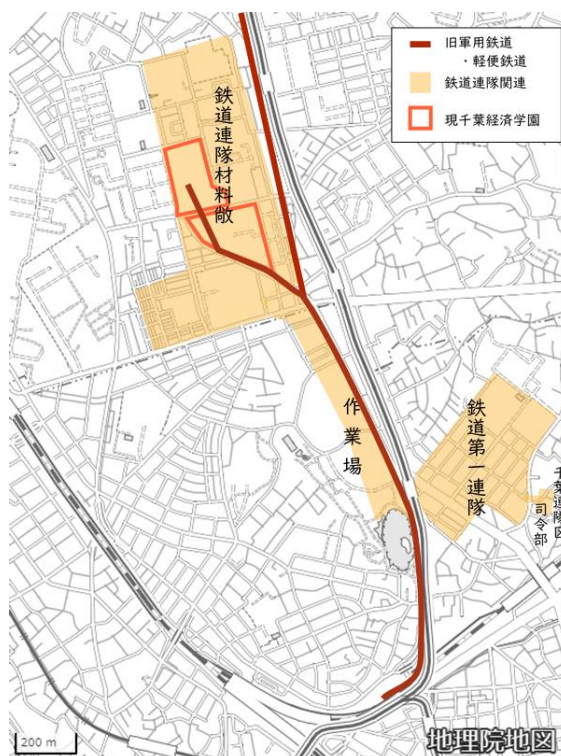
建設当時から使用されていたクレーンとレール(2024年4月11日・5月29日撮影)



航空写真



1980年代撮影 航空写真



※地図は現在のものによる(提供 地理院地図 Vector) USA,M504,I68 1947/09/24(昭 22)撮影地域千葉撮影高度(m)1829 撮影縮尺(アナログ)(提供 国土院の空中写真)

『鉄道第一連隊から材料廠までの全体図』

旧国鉄千葉駅南西より北側に延びる「軍用鉄道線」の西側には、「作業場」及び「材料廠」があり、公道を挟んだ東側には「鉄道第一連隊」や「司令部」が置かれていた。

【参考文献一覧】

- 『とどろき教育 第11号』(とどろき教育編集委員会編、千葉経済高等学校、1989.3)
- 『千葉経済学園60年史：写真でつづる学園のあゆみ』(千葉経済学園60年史編集委員会編、千葉経済学園、1995.3)
- 『鉄道ファン 第25巻第12号(通巻296号)：鉄道聯隊の見える街』(臼井茂信(文・写真)、交友社、1985.12)
- 『建築遺産[旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築] 2024年4月放送』(ケーブルネット296制作)
- 『千葉いまむかし』(千葉市史編集委員会、千葉市教育委員会、2008.3)
- 『日本陸軍鉄道連隊写真集』(高木宏之著、潮書房光人社、2015.8)
- 『千葉県ホームページ：千葉市の国・県指定および国登録文化財「旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築」』
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/bunkazai/p111-042.html>)
- 『今昔マップ on the web』(<https://ktgis.net/kjmapw/>)
- 『地図・空中写真閲覧サービス』(<https://maps.gsi.go.jp/>)

学校法人 千葉経済学園【旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築】

2024年5月30日(初版)

2024年10月17日(第2版)

千葉経済大学総合図書館

※千葉経済大学総合図書館「2024年前期企画展示」のデータを使用して作成しています